

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570206789		
法人名	有限会社 クラウド		
事業所名	グループホーム 集い		
所在地	秋田県能代市字高埜56-1		
自己評価作成日	令和5年11月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の中で、利用者の皆様が安心して生活を送れるよう心掛けていますと共に、利用者の皆様のご自身で出来る事を見出せる支援が出来るよう努めています

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php">http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和5年12月7日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議に出来るだけ多くの家族が参加できるよう配慮しており、自己評価及び外部評価結果と運営推進会議報告書を毎回全家族へ郵送している。詳細な手書きの状況報告とそれに対する家族からの感想や要望、日常のスタッフ間での意見や気づきを取り入れ、介護計画に反映させている。1名入浴する毎に清掃し、お湯を交換してお気に入りの入浴剤を入れて香りを楽しんでいる。利用者個々の個性の違いに配慮し、言葉かけや表情を吟味して対応するよう心がけている。「家族がいるいないに関らず利用者への接し方が一貫し、大変好感が持てる。いつも笑顔で接してくれ、感謝しています。」と家族から好評。静かな環境の中、時間がゆっくり流れるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:8,9,15)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体が理念を意識・共有し、利用者様とその人らしく安心・安定した生活が送れるような環境を提供できるよう努める。	前回の外部評価結果を踏まえ、企業理念の他にホーム独自の理念の作成を検討している。管理者としての今後の支援の方向性や、スタッフの個別ケアへのゆるぎない思いが確認できた。	ホーム独自の理念という文言にこだわることなく、管理者を含めた全スタッフの思いを一度整理し、具現化することを、提案します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入させていただいているが、今のところ表立っての活動などがない。ご近所様達とは、散歩等を通じて交流がある。	ホームを移転した4年前から町内会に加入しているが、新興住宅地で活発な町内活動等、地域連携が脆弱であり、地域連携の強化を模索している。隣接している高校の部活動帰りの生徒と挨拶を交わしている。歩いてすぐの距離に大型ショッピングモールがあり、利用者と買い物に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	感染症予防の為に未実施ではいるが、地域住民との交流が持てるような行事を企画した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回は開催している。	コロナ感染症対策の緩和により、対面での実施が可能となり、市担当者や家族が参加する運営推進会議をホームを会場に開催している。参加する家族をあえて特定せず、声かけ等で出来る限り多くの家族が参加できるよう配慮している。	議事録(報告書)の出席者所属(分野)について、「市の職員又は地域包括支援センター職員」、「利用者又は家族」の標記を、他者からも容易に所属が判断できるよう工夫することに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等で交流を持ち、相談事等を協力して頂ける体制である。	長寿生きがい課の担当者が、代理も含め毎回運営推進会議に参加しており、機会がある度にホームの相談窓口として便宜を図ってくれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	契約書に身体拘束の指針等を記載し、ホームの方針を説明し、理解していただける様努めている。	身体拘束廃止委員会を定期的開催しており、身体拘束及び虐待についての禁止の対象となる具体的な行為や関連法令を、3ヶ月に一度の研修を通じて確認している。開設依頼、対象者はいない。	3ヶ月に一度開催している身体拘束廃止委員会(適正化検討委員会)の議事録について、その記録の仕方を再度検討し、議事録の全スタッフへの周知状況も、簡単に確認できるよう見直しを期待します。
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	何かあれば市役所担当職員に質問や相談をしている状況。今後研修の機会を持つ必要がある。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書・重要事項説明書を見ながら十分な説明を行い、質問があればご理解して頂けるまで話し合うよう努めている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、全く上がっていない状況。ご家族様が来訪された際、意見などを聞き出す機会を設けている。	運営推進会議に出来るだけ多くの家族が参加できるよう配慮し、外部評価結果や運営推進会議等の結果についても、全家族へ郵送している。計画作成担当者が手書きの状況報告を定期的に家族に郵送するなど、信頼関係を築けるよう取り組み、忌憚なく意見を表出していただけるよう努めている。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	管理者は職員からの要望や提案を受けた際、その事を代表者に伝え相談の上、反映させて貰っている。	スタッフからの感染症対策研修への参加希望があり、早速申込み、伝達研修で共有している。家庭事情を考慮し、勤務体制やシフトを調整する等して、働きやすい体制作りにも努めている。夜勤時、短時間でも休憩できるように、スタッフの希望でソファを設置する等、働きやすい環境作りにも努めている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との情報交換などの交流は取っているが、定期的ではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様達が、不安や困りごと等を職員に気軽に相談出来るよう、日々コミュニケーションを図り、信頼関係を築けるよう努めている。また、ご家族様から得た情報を支援に活かすよう努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気軽に相談・話し合いが出来るよう、来訪時等にコミュニケーションを図り、信頼関係が築けるよう努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションをとる事により、その人に合った家事支援などを提供し、自分が必要とされているという意識を持っていただけるよう努めている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様とご家族様が疎遠にならないよう支援に努めている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	ご友人や知人、ご家族様が気軽に来訪出来るような環境作りに努めている。	帰宅願望に寄り添い、自宅までドライブして庭の管理状況を確認したり、県外の家族とタブレットで会話できるよう支援したりしている。コロナ感染症が第5類に移行し、近所の方や友人からの面会希望や問い合わせが増えてきている。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格の把握に努め、職員が加わる事で、ご利用者様同士が関わり合えるよう努めている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、気軽に相談できる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望等を気軽に言えるような関係・雰囲気作りに努めており、ホームの規則を守りながら、出来る限りご本人の意思を尊重する。	民謡が流れると、自然に体でリズムをとる方、かつてより踊りや唄が好きな方には、カラオケで喉を披露する機会を設けている。ホームの切り花を世話してくれる方、食器拭きを手伝う方、洗濯物をたたんでくれる方等があり、その人らしさを尊重している。半数以上の方が、テレビを持ち込んでおり、中には深夜まで視聴される方もいるが、日中の生活に支障が出ない程度に自由に過ごしていただいている。利用者はスタッフの言動を实によく観察しており、話しやすさには特に敏感なので、配慮している。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご本人様やご家族様からこれまでの情報を収集し、その内容に基づいた支援に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	ご利用者様の希望を聞いたり、カンファレンスにて職員個々から見たご利用者様の状態をまとめている。また、ご家族様にはその月の状態をお伝えし希望を伺っており、それらを活かしたプランを作成するよう努めている。	ホームでの生活の様子に対する家族からの感想や要望のきっかけとなるよう、手書きの詳細な状況報告と一緒に行事等の写真を郵送している。利用者の表情のわずかな変化への気づきや、日常のスタッフ間での意見や気づきを取り入れ、計画に反映させている。利用料の支払いに家族が訪問した際、コミュニケーションを図る機会として活用している。業務日誌などに記載された内容を掘り下げた情報交換することで、現状に即した計画作成に繋げている。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に日々の様子や状態の変化を記入することで、情報の共有は出来ている。職員会議等で気づいた事を話し合い、プランに反映されるよう努めている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所に散歩や買い物に出かけたり、ドライブに出かけたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に個々の主治医へ通院、受診している。ご利用者様の状態に変化があれば主治医に相談し、結果をご家族様に報告している。治療が変わる時は、必ずご家族様の意見、判断をもらっている。	かかりつけ医の定期受診には職員が付き添っている。協力医が毎月往診してくれ、訪問看護も週に1回利用できる。歯科医師は連絡すると往診の対応をしてくれる。かかりつけ薬局へは、ファックスで処方を送信すると毎回配達してくれ、気軽に相談できる関係にある。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護利用時に、ご利用者様それぞれの健康状態の変化を報告・相談し、必要があれば受診している。また、訪問看護師とは、24時間連絡が取れる体制になっている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、医療連携室の相談員を通じ、情報を提供したり、退院に向けての情報を受けたりしている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についてはご家族様のご希望を伺い、話し合いを持つようにしている。ホームで出来る事を納得して頂いた上で、方向性を決め訪問看護・協力医の往診などで対応・支援している。	緊急時、協力医へは24時間連絡できる体制にある。重度化した場合及び看取りに関する指針、重度化した場合における対応の指針が整備され、入居時に説明している。状況の変化に応じ、協力医や看護師を加え今後の対応を協議できる体制にある。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講座を定期的実施している。連絡網を作成し迅速な対応が出来るよう努めている。また、マニュアルを作成し、いつでも閲覧できるような環境にしている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施しており、時間帯やホーム内の状況、職員人数などを変えて行っている。地域との協力体制は、ご近所様にご協力をお願いしている。	ハザードマップ上、水害の心配は無い地域である。年2回の避難訓練を実施し、年1回夜間想定で行っている。数名の近隣住民が駆けつけてくれる段取りで、避難後の見守りをお願いしている。隣接の高校のグラウンドや体育館が避難場所。同系列のグループホーム等の協力体制も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人一人に対し、十分配慮しているが、共に過ごす時間が長くなると遠慮が無くなってしまい、職員全体で気を付ける必要がある。	利用者個々の個性や違いに配慮し、言葉かけや表情を吟味し、対応するよう心がけている。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容については、定期的に専門職に在所してもらい身だしなみを整えている。また、心地よく入浴して頂く為、個々の好む入浴剤など使用している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や誕生日など、ご利用者様のご希望の食事を可能な限り提供している。	敬老会等の行事では、個々に聞き取りアンケートを実施し、ちらし寿司や大好きなしんこ餅を提供したり、だまこと一緒に作ったりしている。ホームの行事では、利用者個々へのプレゼントを用意したり、ビンゴゲームをしたり、ビールを嗜む方には、ノンアルコールビールの提供も行っている。どちらかという洋食が好まれるなど、好みの把握に努め、何を提供すると喜んでいただけるかを検討し、提供するよう努めている。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いており、毎食の摂取状況を職員全体で把握し、また確認できるようにしている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい、歯磨きを行っている。自ら出来ない方に対しては、口腔ケア用品を使いケアを行っている。義歯使用の方は、毎日夕食後にポリデントを実施している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、それに合わせたトイレ誘導を行っている。	食事・服薬・水分補給・バイタル・排泄状況・入浴・着替・爪切・耳垢等々の項目が記載された、9名分1枚のチェック表を採用しており、個別の集計結果がファイルされている。チェック表を活用し、個別の排泄パターンを把握し、日常の自立に向けた排泄支援に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄サイクルをチェックシート等を用いて把握し、主治医や訪問看護師に相談している。また、毎日体操の時間を設け、状態を観察している。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の状態を見て無理強いせずに、1週間に2~3回入浴できるよう支援している。入浴を嫌うご利用者様もいる為、コミュニケーションを図り入浴して頂けるよう努めている。	毎日、午後3名が入浴できるよう配慮している。一般家庭用のユニットバスは洗い場が広く、とても清潔で明るく暖かい。1名入浴する毎に清掃し、お湯を交換している。自分好みの入浴剤をスタッフと出かけ購入し、香りを楽しんでいる。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の昼寝や休息状況、夜間の睡眠状況を把握し、ゆっくり眠れるよう支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院ノートを作成し、お薬手帳と共に事務所に保管しており、いつでも確認できるようにしている。副作用など気になることが有れば主治医や訪問看護師に相談している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状況に合わせた役割を持っていただけるようにし、充実した日々を過ごせるよう支援している。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば体調を考慮しつつ、また感染症予防を徹底し、可能な限り外出出来るよう支援している。	近隣は住宅街で交通量が少なく、近くの大型ショッピングモールに散歩がてらよく出かける。農家だった利用者からの希望で、稲刈りの様子を見に近くの田んぼに出かけたり、きみまち坂の紅葉や能代七夕で有名な天空の不夜城を見に行ったり、展示施設等へドライブに出かけたりしている。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望に応じており、一部のご利用者様はご自分で管理・所持されている。ただ金額に関しては、上限を2千円までとさせて頂いている。今現在いない。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般家庭のような雰囲気作りに努めており、ゆったりと過ごせるようにしている。	築4年目で白がベースのホールや廊下は、とても清潔で明るい。壁の飾りつけもすっきりとしており居心地がいい。周辺はとても静かで過ごし易い環境にある。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中リビングにて過ごされる方が多く、ゆっくりテレビを観たり、歌を聴いたり、カラオケをしたりとご利用者様同士で会話などが楽しめる空間作りに努めている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前、ご家族様に使い慣れた物の必要性を説明し、ご利用者様が安心して過ごせるような居室作りに努めている。	基本、ベットもタンスも持ち込み。エアコンとサーキュレーターが設置されており、冬は各居室に個室用の加湿器を設置している。半数以上の方がテレビを持ち込んで、ゆったりと過ごせる環境作りに努めている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室の場所を忘れてしまわれる方もおられる為、ドアに張り紙を貼付しわかりやすいように表示している。安全を保つため手すりを付けたり、居室内の整理整頓に努め、転倒などを予防している。		